形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Failure of curettage and electrodesiccation for removal of basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療の不完全症例	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ14-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅴ ）	
	Pubmed ID	6497413	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	120	
	号	11	
	ページ	1456-60	
	ISSN ナンバー	0003-987X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1984	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Suhge d'Aubermont PC	Department of Dermatology, Emory University School of Medicine
	その他著者 1	Bennet RG	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

一次研究の８項目	目的	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療の不完全な症例を検討	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Emory 大学	
	対象者	C & D で治療を行った原発 BCC の 69 切片を検討し、組織学的に腫瘍残存の有無を確認した。	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	C&D 治療を 3 回施行。部位別に腫瘍残存の有無を比較した。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	組織学的な腫瘍残存の有無	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	組織学的に腫瘍残存の有無を確認した。全体の 33.3%に腫瘍残存を認めた。特に頭頚部の 45 病変に関しては 46.6%と高率であり、一方体幹や四肢末端は 24 病変中 8.3%と対照的であった。	
	結論	頭頚部領域、1cm 以上のサイズの BCC に対する C&E 治療は十分注意が必要である。一方、体幹や四肢は高い治療効果が期待できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅴ ） C&E は適応症例を選別することを強調している。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Repeated 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy following electro-curettage for pigmented basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	色素性基底細胞癌に対する電気的掻爬術後の 5－アミノレブリン酸を基盤とした頓回光力学療法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 2 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ14-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	10692817	
	医中誌 ID	2000183657	
	雑誌名	The Journal of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号	1	
	ページ	10-15	
	ISSN ナンバー	0385-2407	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Y Itoh	Department of Dermatology, National Defense Medical College
	その他著者 1	T Henta	
	その他著者 2	Y Ninomiya	
	その他著者 3	S Tajima	
	その他著者 4	A Ishibashi	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	BCC 症例に対して電気的掻爬術を行なった後、複数回の光力学療法を行った場合の有用性について検討する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	防衛医科大学	
	対象者	頭部・顔面　15 例 16 部位の BCC	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	電気的掻爬術と光力学療法の施行	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	治療効果（4 週後の組織学的な腫瘍残存の有無	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	消失後の再発の有無	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	14 部位（13 例）に組織学的な完全緩寛を得た。1 例は部分緩寛で、1 例は無効であった。全例で再発はみられなかった（6～13 ヶ月の観察期間において）。	
	結論	色素性基底細胞癌に対する電気的掻爬術後の 5－アミノレブリン酸を基盤とした頓回光力学療法は有用な治療法である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 数少ない日本人の論文である。電気的掻爬単独ではなく、かつ観察期間が短いので、エビデンスには乏しい。厳密には症例集積研究とも考えられるが、適度にまとまった症例数を長期間詳細に検討しており、コホート研究に準ずるものと評価した。	

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Long-term recurrence rates in previously untreated (primary) basal cell carcinoma: implications for patient follow up	
	論文の日本語タイトル	未治療の原発 BCC に対する長期再発率：患者フォローアップの意味	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ14-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ 1 ）	
	Pubmed ID	2646336	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	15	
	号	3	
	ページ	315-28	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1989	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rowe DE	Texas Health Science Center
	その他著者 1	Carroll RJ	Texas A and M university
	その他著者 2	Day CL Jr	Texas Health Science Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	各種の治療法で治療を行った基底細胞癌の適切な経過観察期間を検討した
	データソース	記載なし
	研究の選択	除外項目は①20 例未満の報告　②SCC との区別をしていない報告　③クライオサージェリーの報告（通常の 3 倍の再発率）　④断端陽性例で適切な処置が行われていない報告例
	データ抽出	外科的切除 37 報告、放射線 31 報告、クライオ治療 14 報告、electrodesiccation 21 報告、Mohs 手術 3 報告を抽出した。
	主な結果	経過観察 5 年未満 / 5 年以上 手術 2.8% / 10.1% Electrodesiccation 4.7% / 7.7% 放射線療法 5.3% / 8.7% クライオ 3.7% / 7.5% MMS 以外の療法 4.2% / 8.7% MMS 1.4% / 1.0% 再発時期：3 年までに 66%が再発し、6～10 年に 18%が再発した。
	結論	基底細胞癌では 5 年での成績を基準に考える。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） 再発した BCC の論文を網羅しており、そこから導かれた治療選択に関する結論は有用である。

形　式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティクレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A systematic review of treatment modalities for primary basal cell carcinomas	
	論文の日本語タイトル	原発性基底細胞癌の治療手段に関するレビュー	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ14-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1 つ以上のランダム化比較試験による Ⅲ．非ランダム化比較試験による Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズによる） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	10522664	
	医中誌 ID		
	雑誌名		
	雑誌 ID	Arch Dermatol	
	巻	135	
	号	10	
	ページ	1177-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thissen MR	Maastricht Medical Center
	その他著者 1	Neumann MH	
	その他著者 2	Schouten LJ	Comprehensive Cancer Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法別再発率を検討する
	データソース	MEDLINE, EMBASE, CANCERLIT
	研究の選択	基底細胞癌に対して、通常の手術治療、Mohs 手術、凍結治療、C&E、放射線治療、免疫療法、PDT を施行した研究を選択した。
	データ抽出	298 文献のうち 18 文献を抽出した。除外した文献は、遡及的研究、5 年未満の経過観察期間、50 例未満の症例報告、レビュー、重複投稿、整容性の報告論文である。
	主な結果	再発率に関しては、Mohs 手術 1.1%、通常の手術 5.3%、凍結療法 4.3%、C&E 13.2%、放射線治療 7.4%、免疫療法 21.4%であった。
	結論	再発率の違いに関しては、解析方法が異なるために単純な比較はできない。 ③ Mohs 法：サイズの大きい腫瘍、高リスク領域に発生したモルフェア型に適応がある。 ④ 通常の切除：結節型、表在型の小さい腫瘍 他の治療は原則として手術が適応にならない症例に用いるべきで、免疫療法や PDT は研究段階の治療として位置づけられている。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅰ ） 治療法別に再発率を検討した比較的新しいレビューである。手術の有用性（Mohs 手術も含め）が強調される。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Curettage-electrodesiccation treatment of basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ14-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	848972	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	113	
	号	4	
	ページ	439-43	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1977	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kopf AW	
	その他著者 1	Bart RS	
	その他著者 2	Schrager D	
	その他著者 3	Lazar M	
	その他著者 4	Popkin GL	

一次研究の８項目			
	目的	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング		
	対象者	Group A　597 病変（1958～1962 年に Skin&Cancer Unit で治療された例） Group B　91 病変（1970 年　同施設で治療された） Group C　210 病変（1962～1973 年に開業医で治療された症例）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　(3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 13 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	予後因子	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3	整容性	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	4	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5 年再発率は Group A 18.8%, Group B 9.6%, Group C 5.7% すべてのグループで鼻、鼻周囲、前額で高い再発率であった。 掻爬・電気凝固治療による副次的作用は軽度の肥厚性瘢痕のみであった。整容的な問題も時間経過とともに改善した。	
	結論	掻爬・電気凝固治療は BCC の治療に有用であり、経験豊富な医師によって行われた場合は全体の治癒率も 90%以上であった。整容的にも満足な結果が得られ、ほとんど副次的作用も認めなかった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 多数症例の解析と副次的作用の調査	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Treatment of basal cell carcinoma by curettage and electrodesiccation**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での日次名称	BCCCQ14-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	14007244	
	雑誌名	Can Med Assoc J	
	雑誌 ID		
	巻	86	
	号		
	ページ	855-62	
	ISSN ナンバー	0008-4409	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1962	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Williamson GS	Ottawa Civic Hospital Clinic of the Ontario Cancer Treatment and Research Foundation
	その他著者 1	Jackson R	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		

一次研究の８項目			
	目的	基底細胞癌に対する掻爬・電気凝固治療	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Ottawa Civic Hospital	
	対象者	1955~1959 年の新規 BCC 患者 390 例（C&E287 例、メス切除 63 例、X 線 24 例、その他の放射線 16 例）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	C&E 治療	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｺｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	施行医による再発率の差	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	C&E 治療を行った場合の全体の再発率は 7.66%であった。これをこの段階で他の治療と比較することは難しい。 施行する医師による再発率の差異が示された（Dr.A は再発率 2.6%に対して、Dr. B,C,D の平均再発率が 10.8%と高値であった）。	
	結論	287 例の BCC 患者を C&E で治療し、97.4%の治癒率であった。但しこの方法には制限があり、サイズの大きい破壊型の腫瘍、morphea type には適応がない。さらに十分熟練した医師が施行すれば、C&E は有用な治療手段になる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） C&E の多数例を検討している。	

BCC CQ15 (1)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Topical photodynamic therapy with endogenous porphyrins after application of 5-aminolevulinic acid.：An alternative treatment modality for solar keratosis, superficial squamous cell carcinomas, and basal cell carcinomas?**	
	論文の日本語タイトル	5－アミノレブリン酸外用による光線力学的治療：日光角化症、表在性有棘細胞癌、基底細胞癌の代替治療となりうるか？	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	8318069	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号	1	
	ページ	17-21	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1993	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wolf P	Department of Dermatology, University of Graz
	その他著者 1	Rieger E	
	その他著者 2	Kerl H	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の８項目	目的	皮膚癌に対する外用光線力学的療法（PDT）の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	オーストリアの大学病院	
	対象者	皮膚癌（日光角化症、表在性有棘細胞癌、基底細胞癌）患者	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	5－アミノレブリン酸外用 PDT	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	完全奏効率（臨床的評価）	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	日光角化症 9/9 例、表在性有棘細胞癌 5/6 例、表在型基底細胞癌 36/37 例、結節型基底細胞癌 1/10 例に臨床的に完全奏効が得られた。観察期間中央値 7 ヶ月において表在型基底細胞癌の 1 例が再発。	
	結論	5－アミノレブリン酸外用 PDT は表在性の皮膚癌には有用であった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 観察期間が短いので再発率の評価までは至らないが、結節型基底細胞癌においては消退効果も乏しかった。 厳密には症例集積研究というべきだが、適当にまとまった症例を長期フォローしており、後ろ向きコホート研究に準ずるものと評価した。	

BCC CQ15 (2)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	表在型基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Photodynamic therapy of superficial basal cell carcinoma with 5-aminolevulinic acid with dimethylsulfoxide and ethylendiaminetetraacetic acid: a comparison of two light sources**	
	論文の日本語タイトル	表在型基底細胞癌に対する 5－アミノレブリン酸 PDT：2 種の光源比較	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	10857368	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Photochemistry and Photobiology	
	雑誌 ID		
	巻	71	
	号	6	
	ページ	724-729	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Soler A	Photodynamic Out-patient Clinic, The Norwegian Radium Hospital and Institute for Cancer Research
	その他著者 1	Angell-Petersen E	
	その他著者 2	Warloe T	
	その他著者 3	Tausjo J	
	その他著者 4	Steen H	
	その他著者 5	Moan J	
	その他著者 6	Giercksky K	
	その他著者 7		

一次研究の８項目	目的	表在型基底細胞癌に対する PDT の光源による効果の差を検証する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	ノルウェーの総合病院	
	対象者	表在型基底細胞癌 83 例、245 病巣	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	5－アミノレブリン酸 PDT の光源をレーザーとブロードバンドランプでランダムに割り付け	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	臨床的完全奏効率（6 ヵ月後）	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3	整容効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	完全奏効率はレーザー群で 86%、ランプ群で 82%（p=0.49）。整容効果はレーザー群の 84%、ランプ群の 92%が good もしくは excellent であった（p=0.075）。いずれも統計学的な有意差なし。2 年後の再発率はレーザー群 4%、ランプ群 5%。	
	結論	治療効果と整容効果は同等であったが、コストと安全性からはブロードバンドランプの方が優れている。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅱ ） 光源の種類に関わらず、表在型基底細胞癌に対しては 80%以上の完全奏効率が得られている。	

BCC CQ15 (3)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	大型もしくは多発性のボーエン病、基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Photodynamic therapy for large or multiple patches of Bowen disease and basal cell carcinoma.**	
	論文の日本語タイトル	大型もしくは多発性のボーエン病と基底細胞癌に対する PDT	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	11255332	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	137	
	号	3	
	ページ	319-324	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Morton C	Department of Dermatology, University of Glasgow
	その他著者 1	Whitehurst C	
	その他著者 2	McColl J	
	その他著者 3	Moore J	
	その他著者 4	MacKie R	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

一次研究の 8 項目	目的	大型、多発性のボーエン病、基底細胞癌に対する PDT の有効性を検証する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	イギリスの大学病院	
	対象者	大型（2cm 以上）ボーエン病 40 例、多発性（3 ヶ所以上）ボーエン病 45 例、大型表在型基底細胞癌 40 例、多発性表在型基底細胞癌 58 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	ALA 外用 PDT	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	完全奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	基底細胞癌に関して：3 回までの治療で大型基底細胞癌の完全奏効率は 88%で、34 ヶ月の観察期間で 4 例が再発し、最終的な完全奏効率は 78%。多発性基底細胞癌に対しては 3 回までの治療での完全奏効率は 90%、41 ヶ月で 2 例が再発したため最終的には 86%。	
	結論	大型、多発性のボーエン病と表在型基底細胞癌に対しては PDT は第一選択の治療とすべき。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 基底細胞癌は全て表在型を対象としているが、観察期間も比較的長く、再発の評価も正確に行われている。 症例集積研究ともいえるが、適当にまとまった症例を詳細かつ長期に観察しており、コホート研究に準ずるものと評価した。	

BCC CQ15 (4)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	表在性皮膚腫瘍（日光角化症、基底細胞癌、表在性有棘細胞癌、ボーエン病、ケラトアカントーマ）	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Repetitive photodynamic therapy with topical delta-aminolaevulinic acid as an appropriate approach to the routine treatment of superficial non-melanoma skin tumours**	
	論文の日本語タイトル	表在性皮膚腫瘍に対するアミノレブリン酸外用 PDT	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	7472803	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of photochemistry and photobiology B	
	雑誌 ID		
	巻	29	
	号	1	
	ページ	53-57	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1995	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Calzavara-Pinton PG	Department of Dermatology, Brescia University Hospital
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の 8 項目	目的	表在性皮膚腫瘍に対する PDT の治療効果を検証する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	イタリアの大学病院	
	対象者	日光角化症 50 例、表在型基底細胞癌 23 例、結節型基底細胞癌 30 例、色素性基底細胞癌 4 例、表在性有棘細胞癌 12 例、結節性有棘細胞癌 6 例、ボーエン病 6 例、ケラトアカントーマ 4 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	20%アミノレブリン酸外用 PDT（ダイレーザー）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	完全奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	基底細胞癌に関して：初期治療時の完全奏効率は表在型基底細胞癌 100%（23/23）、結節型基底細胞癌 80%（24/30）、色素性基底細胞癌 0%（0/4）。中央観察期間 29 ヶ月での最終的な完全奏効率はそれぞれ 86.9%（20/23）、50%（15/30）、0%（0/4）であった。	
	結論	表在性の皮膚腫瘍に対してアミノレブリン酸外用 PDT は有用な治療法である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 比較的症例数も多く、表在型と結節型基底細胞癌の両者を対象としているため、治療効果の比較検討がしやすい。日本人の基底細胞癌は白人と異なり大半が色素性であるために、PDT の適用を考える上では重要なデータである。	

BCC CQ15 (5)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Repeated 5-aminolevulinic acid-based photodynamic therapy following electro-curettage for pigmented basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	色素性基底細胞癌に対する電気掻破術と 5-アミノレブリン酸光線力学療法の反復併用療法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	10692817	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号	1	
	ページ	10-15	
	ISSN ナンバー	0385-2407	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Itoh Y	Department of Dermatology, National Defence Medical College 防衛医科大学皮膚科
	その他著者 1	Henta T	
	その他著者 2	Ninomiya Y	
	その他著者 3	Tajima S	
	その他著者 4	Ishibashi A	
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	色素性基底細胞癌に対する電気掻破術後の光線力学療法（PDT）の有用性を評価する	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	1 大学病院	
	対象者	頭部・顔面の色素性基底細胞癌患者 14 名の 15 病変	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 15 ）	
	介入（要因曝露）	電気掻破術後にアミノレブリン酸（外用、滴下）PDT を施行。2、3 週間隔で 3～5 回繰り返し。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	4 週後の組織学的な完全奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	4 週以後の再発の有無	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	14 病変（13 例）において組織学的な完全奏効が得られ、1 例は部分奏効、1 例は無効であった。6 ヵ月から最長 13 ヵ月のフォロー期間のなかでは再発症例は見られなかった。	
	結論	色素性基底細胞癌に対する電気掻破術後の光線力学療法（PDT）の反復施行は有用であった。	
	備考	結節・潰瘍型が 14 病変、表在型が 2 病変	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） PDT では tumor thickness の厚い腫瘍や色素性病変では有効性が劣るとされるため、欧米と異なり基底細胞癌の 8 割以上が色素性である日本人においては PDT の適応となり難い。著者らは PDT の施行前に掻破術を加えることによって治療効果を高めることを目的としている。一次アウトカムは腫瘍消退であるが、掻破術を併用している以上、奏効率が高いことはある程度予想できるため、再発の評価がより重要となる。全体にフォロー期間が短い点は残念であるが、日本人の基底細胞癌の特性に対応するための治療プロトコールであり、本邦における臨床研究という点では非常に貴重なデータとして評価できる。症例集積研究ともいえるが、適当にまとまった症例数を詳細かつ長期に観察しておりコホート研究に準ずるものと評価した。	

BCC CQ15 (6)

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Interventions for basal cell carcinoma of the skin**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における介入研究	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochran database of systematic reviews	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ		
	ISSN ナンバー	1469-493X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 と 4 ）	
	発行年月	2003	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	
	その他著者 1	Bong J	
	その他著者 2	Perkins W	
	その他著者 3	Williams HC	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

ﾚﾋﾞｭｰ研究の 6 項目	目的	基底細胞癌に対する各治療法の有用性を検証する
	データソース	MEDLINE (1966-2002), EMBASE (1980-2002), BIDS ISI (Science Citation Index 1981-2002), The Cochrane Skin Group Specialized register (January 2002), Cochrane Database of Systematic Reviews and Cochrane Controlled Trials Register (2002, issue 1), Mega Register of Controlled Trials on the Current Controlled Trials web site and the National Research Register's MRC Clinical Trials Directory (2002, Issue 1)
	研究の選択	組織学的に確認された原発（未治療）基底細胞癌の成人例を対象としたランダム化比較試験
	データ抽出	2 人のレビューアーが独立して選択。
	主な結果	19 論文を選択。外科的切除と放射線療法の RCT では後者に有意に組織学的な 4 年再発・残存率が高かった（オッズ比 0.09、95%CI 0.01-0.67）。凍結療法は簡便で低コストであり、外科的切除との RCT では臨床的な 1 年再発率に有意差はなかった（オッズ比 0.23、95%CI 0.01-6.78）が、放射線療法との RCT では組織学的 1 年再発率が有意に高かった（オッズ比 14.80、95%CI 3.17-69）。イミキモドクリームの初期試験では、表在型基底細胞癌に対する 6 週投与で高い組織学的な奏効率（87-88%）が得られ、結節型への 12 週投与でも 76%の奏効率であったが、外科的切除との比較試験は行われていなかった。
	結論	基底細胞癌の治療法の有用性ということに関して、質の高い臨床試験は乏しい。ほとんどの試験が再発の低リスク部位に発生したものを対象としている。外科的切除と放射線療法が最も有効な治療と思われ、なかでも外科的切除の再発率が低い。他の治療法も一定の有用性はあるようだが、外科的切除との比較試験が少ない。イミキモドは新しい治療法として期待されるが、切除を含めた他の治療法との比較がまだ行われていない。
	備考	
ﾚﾋﾞｭｰﾜｰｺﾒﾝﾄ	レビューワー氏名	竹之内辰也
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（I） 基底細胞癌の治療の第一選択は外科的切除であるが、介入として外科的切除を含んでいる RCT は、採用された 19 篇中 2 篇のみである。インターフェロン関係が 4 篇やイミキモド関係が 7 篇と、現在の本邦では適用困難な治療に関する試験が大半を占めている。

BCC CQ15 (7)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Photodynamic therapy using topical methyl aminolevulinate vs surgery for nodular basal cell carcinoma. Results of a multicenter randomized prospective trial**	
	論文の日本語タイトル	アミノレブリン酸外用光線力学療法と外科療法の比較．多施設によるランダム化比較試験	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	14732655	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	140	
	号	1	
	ページ	17-23	
	ISSNナンバー	pISSN 0003-987X　eISSN 1538-3652	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rhodes LE	Royal Liverpool University Hospital
	その他著者 1	de Rie M	
	その他著者 2	Enstrom Y	
	その他著者 3	Groves R	
	その他著者 4	Morken T	
	その他著者 5	Goulden V	
	その他著者 6	Wong GA	
	その他著者 7	Grob JJ	
	その他著者 8	Varma S	
	その他著者 9	Wolf P	
	その他著者 10		

一次研究の8項目	目的	結節型基底細胞癌に対するアミノレブリン酸外用光線力学療法（PDT）の有用性を、標準的治療である外科療法と比較検証する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	大学病院数施設（イギリス、オランダ、スウェーデン、フランス、オーストリア）	
	対象者	初回治療の結節型基底細胞癌患者 101 例（成人）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	PDT 52 例と外科的切除 49 例に割り付け。PDT はアミノレブリン酸 160mg/g 外用と 75 J/cm²の赤色光（570-670nm）照射を 1 週間隔で 2 回施行。3 ヵ月後に反応のなかった 13 例には再度施行。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾑ）	エンドポイント	区分
	1	3 ヵ月後の臨床的な完全奏効率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	12 ヵ月後の　〃	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3	24 ヵ月後の　〃	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	4	3、12、24 ヵ月後の整容効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	主な結果	3 ヵ月の時点で 97 患者の 105 病変が評価可能であり、臨床的な完全奏効率は PDT 91%（48/53）、外科的切除 98%（51/52）で統計学的に有意差なし（p=0.25）。12 ヵ月後の完全奏効率は PDT 83%（44/53）、外科的切除 96%（50/52）でやはり有意差なし（p=0.15）。24 ヵ月後には PDT でさらに 5 例、外科的切除で 1 例が再発。整容効果については、患者自身による評価では 12、24 ヵ月後で有意に PDT が優れ（p<0.05）、第三者による評価では 3、12、24 ヵ月後のいずれにおいても PDT が有意に優れていた（p<0.001）。	
	結論	PDT は結節型基底細胞癌に対する有用な治療法である。外科療法に比べて再発率の高い傾向はみられたが、整容効果においては有意に優れていた。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 基底細胞癌における介入研究の中では、標準治療である外科的切除を対照としている数少ない論文である。12 ヵ月後の完全奏効率は統計学的な有意差は得られていないが、率として 13%の差は無視できず、外科的切除に比較して「再発しやすい傾向はある」と表現している。しかし、PDT は整容効果において外科的切除よりも有意に優れていたことと、正常組織の犠牲が少ない、手技が簡単である、などを理由に結節型基底細胞癌の治療法として PDT は有用である、と著者らは結論付けている。	

BCC CQ15 (8)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Photodynamic therapy vs. cryotherapy of basal cell carcinomas: results of a phase III clinical trial**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する光線力学療法と凍結療法の比較：第三相臨床試験	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ15-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	11298545	
	医中誌 ID		
	雑誌名	British Journal of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	144	
	号	4	
	ページ	832-840	
	ISSNナンバー	pISSN: 0007-0963　eISSN: 1365-2133	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wang I	Lund University Hospital
	その他著者 1	Bendsoe N	
	その他著者 2	Klinteberg CAF	
	その他著者 3	Enejder AMK	
	その他著者 4	Andersson-Engels S	
	その他著者 5	Svanberg S	
	その他著者 6	Svanberg K	
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌に対する光線力学療法（PDT）の有用性を凍結療法との比較により検証する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	1 大学病院（スウェーデン）	
	対象者	組織学的に確認された基底細胞癌 88 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	アミノレブリン酸外用 PDT と凍結療法（液体窒素スプレー法、凍結－融解 2 サイクル）に割り付け。残存があれば追加治療。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾑ）	エンドポイント	区分
	1	1 年再発率（組織学的）	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	整容効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3	治療耐用性（治癒期間、疼痛等）	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	組織学的な 1 年再発率は PDT が 25%（11/44）、凍結療法が 15%（6/39）、臨床的な 1 年再発率はそれぞれ 5%（2/44）、13%（5/39）であり、統計学的な有意差は認めなかった。残存による追加治療を要したのは PDT で 30%（13/44）、凍結療法で 3%（1/39）であったが、多くは 1 回のみの追加であった。PDT の方が治癒までの期間が有意に短く、整容効果も優れていた。	
	結論	治療効果の点では、PDT は凍結療法に匹敵するものであった。追加の治療はより必要であったが、治癒までの期間と整容面では PDT の方が優れていた。	
	備考	表在型 36 例、結節型 39 例。病型別にみても PDT と凍結療法の再発率の有意差はなし。	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 再発の評価が全例組織学的に行われているために、データとしての精度は高い。部位別では 54%が体幹の症例であり、比較的再発リスクの低い部位の症例が中心であったことには留意する必要がある。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Imiquimod 5% cream for the treatment of superficial basal cell carcinoma: results from two phase III, randomized, vehicle-controlled studies.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ16-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID	15097956	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	50	
	号	5	
	ページ	722 - 733	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Geisse J	Solano Dermatology Associates
	その他著者 1	Caro I	Harvard 大学
	その他著者 2	Lindholm J	Dermatopathology Associates
	その他著者 3	Golitz L	Dermatopathology Servise LLC
	その他著者 4	Stampone P	3M Phamaceuticals
	その他著者 5	Owens M	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	表在型基底細胞癌に対する 5% imiquimod クリームの有効性と安全性	
	研究デザイン	2 重盲検ランダム化比較試験	
	セッティング	米国における多施設共同	
	対象者	724 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	5% imiquimod 外用 6 週間　5 回／週または 7 回／週 vehicle 外用 6 週間　5 回／週または 7 回／週 治療終了 12 週後に臨床・病理学的評価	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	治療後 12 週での臨床・病理評価	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	副作用と局所の皮膚反応	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5% imiquimod 複合消失率（臨床・病理学的）；5 回／ vs 7 回／週 ：75% vs 73% 組織学的消失率; 5 回／ vs 7 回／週 ：82 % vs 79%	
	結論	表在型基底細胞癌に対し 5% imiquimod クリーム 6 週間外用は有用である。5 回／週または 7 回／週で統計学的有意差はなかったので、5 回／週が推奨される。副作用も局所の刺激感が主体で安全性にも問題はない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 表在型基底細胞癌に対し 5% imiquimod クリーム 6 週間、5 回／週外用は安全で有用である。他の治療法との比較試験はないものの、十分考慮されるべき治療法と考えられる。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Imiquimod 5% cream for the treatment of superficial basal cell carcinoma: results from a randomized vehicle-controlled phase III study in Europe.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ16-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	15888150	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	152	
	号	5	
	ページ	939 - 947	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Schulze HJ	Fachklinik Hornheide, Munster
	その他著者 1	Cribier B	Clinique Dermatolodique, Strasbourg
	その他著者 2	Requena L	Fundecion Jimenez Diaz, Madrid
	その他著者 3	Reifenberger J	Dusseldorf 大学病院
	その他著者 4	Ferrandiz C	Germans Trias I Pujol 病院, Barcelona
	その他著者 5	Garcia Diez A	de La Princesa 病院, Madrid
	その他著者 6	Tebbs V	3M Health Care
	その他著者 7	McRae S	3M Pharmaceuticals
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の８項目	目的	表在型基底細胞癌に対する 5%imiquimod クリームの安全性と有効性	
	研究デザイン	２重盲検ランダム化比較試験	
	セッティング	ヨーロッパ 26 施設	
	対象者	26 施設の表在型基底細胞癌 166 例 imiquimod 80 例 vs 基剤 76 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	5%imiquimod クリームを７回／週、６週間外用 vehicle クリームを７回／週、６週間外用	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	治療後 12 週での臨床・病理評価	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	副作用と局所の皮膚反応	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	臨床・病理学的治癒率：imiquimod 77% vs 基剤 6% 病理学的治癒率：imiquimod 80% vs 基剤 6%	
	結論	表在型基底細胞癌に対し 5% imiquimod クリーム６週間外用は有用である。副作用も局所の刺激感が主体で安全性にも問題はない。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 表在型基底細胞癌に対し 5% imiquimod クリーム６週間外用は安全で有用である。他の治療法との比較試験はないものの、十分考慮されるべき治療法と考えられる。

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	5% imiquimod cream and reflectance-mode confocal microscopy as adjunct modalities to Mohs micrographic surgery for treatment of basal cell carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ16-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ II ）	
	Pubmed ID	15606733	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg	
	雑誌 ID		
	巻	30	
	号	12	
	ページ	1462 - 1469	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Torres A	Loma Linda 大学
	その他著者 1	Niemeyer A	同上
	その他著者 2	Berkes B	同上
	その他著者 3	Marra D	同上
	その他著者 4	Schanbacher C	Dana Faber 癌研究所
	その他著者 5	Gonzalez S	Harverd 大学
	その他著者 6	Owens M	3M Phamaceuticals
	その他著者 7	Morgan B	同上
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対する 5% imiquimod クリーム外用は、その後の手術範囲を縮小できるか	
	研究デザイン	2 重盲検ランダム化比較試験	
	セッティング	Loma Linda 大学および Dana Faber 癌研究所	
	対象者	72 例の表在型基底細胞癌	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	5% imiquimod クリーム 5回／週外用：2週、4週、6週（各 12 例） vehicle 5回／週外用（36 例） 治療後すべての症例で Mohs 手術施行	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	手術範囲の縮小	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	5% imiquimod クリーム外用 4 週、6 週で有意に手術範囲の縮小を認めた（-35%、-10%）。2 週外用ではその効果はなかった。	
	結論	手術前の 5% imiquimod クリーム外用 4 週、6 週によって、腫瘍の消失、または縮小手術ができる。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ II ） 各グループ 12 例の小規模な研究ではあるが、5% imiquimod クリーム外用によって腫瘍の消失をみた症例もあった。6 週群に結節型 10 例と病理型の偏りがあり、そのためか 4 週群より縮小度は小さかった。

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　(1)	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ16-4	
書誌情報	研究デザイン	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅰ ）	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Database Syst Rev.	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　(1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　(2)	
	発行年月	2003 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	同上
	その他著者 2	Perkins W	同上
	その他著者 3	Williams HC	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法をシステマティックレビューする
	データソース	Cochrane Database
	研究の選択	病理学的確定診断がついた成人の原発性基底細胞癌に関する報告
	データ抽出	報告の抽出は二人の独立したレビューアーにより行った
	主な結果	imiquimod と基剤を比較したランダム化比較試験 表在型基底細胞癌に毎日 6 週間外用することで高い奏功率 87-88%、結節型基底細胞癌でも毎日 12 週間外用することで良好な奏功率 76%が得られた。
	結論	まだまだ試験は少ないものの表在型基底細胞癌では有効な治療法となりうる可能性がある。しかし、手術との有用性の比較がなされていない。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	コクランレビューで信頼度は高い。しかし、ランダム化比較試験は vehicle との比較しかなく、他の治療法との比較、特に、手術療法との比較が必要。 レベル Ⅰ

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Pilot study of imiquimod 5% cream as adjunctive therapy to curettage and electrodesiccation for nodular basal cell carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ16-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	16393600	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatol Surg.	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号	1	
	ページ	63-9	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2006	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Spencer JM	Mt. Sinai School of Medicine
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	掻爬＋電気凝固（C&E）後の imiquimod クリーム外用は有用か	
	研究デザイン	2 重盲検ランダム化比較試験	
	セッティング	Mt. Sinai School of Medicine	
	対象者	結節型基底細胞癌 20 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	C&E 後 1 ヶ月毎日 imiquimod クリーム外用、vehicle 外用	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	腫瘍残存率	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	創傷治癒までの期間	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	3	整容性	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	C&E 後 8 週での腫瘍残存率 Imiquimod 10% vs 基剤 40% 創傷治癒は基剤の方が有意に早かった。	
	結論	パイロット研究ではあるが、簡便な C&E 後に imiquimod クリーム外用は腫瘍残存率を低下させる可能性がある。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅱ ） 簡便な C&E 後に imiquimod クリーム外用は有用である可能性がある。	

形　式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Open study of the efficacy and mechanism of action of topical imiquimod in basal cell carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ16-6	
雲誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ III ）	
	Pubmed ID	15347339	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Exp Dermatol.	
	雑誌 ID		
	巻	29	
	号	5	
	ページ	518-25	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Vidal D	de la Santa Creu i Sant Pau 病院
	その他著者 1	Matias-Guiu X	同上
	その他著者 2	Alomar A	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目			
	目的	基底細胞癌に imiquimod クリームは有用か	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験（オープン試験）	
	セッティング	1 病院	
	対象者	8mm 以上の基底細胞癌 55 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 2 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 15 ）	
	介入（要因曝露）	35 例　3 回／週外用　8 週間 20 例　5 回／週外用　5 週間	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	2年後の再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	組織中のアポトーシス細胞の数	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	5		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	6		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	7		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	8		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	9		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	10		1.主要 2.副次 3.その他 (　)
	主な結果	3 回 vs 5 回　　total 完全寛解率　80% (28/35) vs 65% (13/20)　75 % (41/55) 表在　100% (2/2) vs 100% (2/2)　100% (4/4) 結節　83% (5/6) vs 100% (2/2)　88% (7/8) 浸潤　77% (21/27) vs 56% (9/16)　70% (30/43)	
	結論	Imiquimod クリームは表在型で 100%、結節型で 88%と極めて高い寛解率を示し、浸潤型においても 70%と十分有用である。	
	備考		

レビューワーコメント	レビューワー氏名	師井　洋一
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（III） オープン試験であるが浸潤型にも比較的良好な結果を示した研究。

BCC CQ17 (1)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 3: Surgical excision**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート3：外科的切除	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1592998	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号		
	ページ	471-476	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf A	
	その他著者 2	Bart R	
	その他著者 3	Grin C	
	その他著者 4	Levenstein M	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	外科的切除後の基底細胞癌の再発に関与する因子を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	初回治療基底細胞癌 588 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	外科的切除	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	症例全体の 5 年再発率は 4.8%。比例ハザードモデルによる多変量解析では、部位（頭部）、性別（男）が独立した有意な再発予測因子であった。頭部の症例の中では腫瘍径 5mm 以下の再発率は 3.2%、6−9mm は 8%、10mm 以上は 9%であった。	
	結論	外科的切除は頭部以外においては極めて有効な治療法である。再発危険部位である頭部においても、5mm 以下の病変であれば高い治癒率が期待できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） ニューヨーク大学による一連の報告の 1 つである。症例数が多くフォロー期間も長いため、再発危険因子のデータとしても信頼度は非常に高い。	

BCC CQ17 (2)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Surgical excision vs Mohs' micrographic surgery for basal-cell carcinoma of the face: randomised controlled trial**	
	論文の日本語タイトル	顔面の基底細胞癌に対する外科的切除とMohs法のランダム化比較試験	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅱ ）	
	Pubmed ID	15541449	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	364	
	号	9447	
	ページ	1766-1772	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0140-6736　eISSN: 1474-547X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2004	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Smeets N	University Hospital Maastricht
	その他著者 1	Krekels G	
	その他著者 2	Ostertag J	
	その他著者 3	Essers B	
	その他著者 4	Dirksen B	
	その他著者 5	Nieman F	
	その他著者 6	Neumann H	
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	顔面基底細胞癌に対する外科的切除と Mohs 法の有用性を比較検証する	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	オランダの 1 大学病院と 1 総合病院	
	対象者	顔面の基底細胞癌（初発 397 病巣と再発 201 病巣）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	外科的切除（3mm マージン、断端陽性であればさらに 3mm 離して追加切除）と Mohs 法に無作為割り付け	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	整容効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	3	手術関連コスト	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	主な結果	初発例：平均観察期間 2.66 年の中で外科的切除群の 6 病巣と Mohs 法群の 3 病巣が再発。30 ヶ月の時点では、外科的切除群 171 病巣中 5 病巣（3%）、Mohs 法群 160 病巣中 3 病巣（2%）が再発（p=0.724）。 再発例：平均観察期間 2.08 年の中で外科的切除群の 8 病巣と Mohs 法群の 2 病巣が再発。18 ヶ月の時点では、外科的切除群 95 病巣中 3 病巣（3%）が再発、Mohs 法群は 93 病巣中再発なし（p=0.119）。 整容効果：外科的切除と Mohs 法で有意差なし 手術関連コスト：初発、再発とも外科的切除群の方が有意に低コストであった。	
	結論	Mohs 法の方が外科的切除に比べ再発率は低かったが、有意差には至らなかった。	
	備考	Intention to treat analysis	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（II） 従来の基底細胞癌に関する臨床研究は再発に関して低リスクの症例を対象としたものが多いが、本研究では顔面基底細胞癌の中でも径 10mm 以上で発生部位や組織型においても高リスクの症例を対象としている点は意義が大きい。 初発例、再発例のいずれにおいても外科的切除と Mohs 法による再発率の有意差は得られていないが、再発例の方が初発例に比べ差が大きい傾向はみられた（p 値 0.119 と 0.724）。再発性基底細胞癌においては Mohs 法は有力な治療法と考えられる。	

BCC CQ17 (3)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Comparison of treatment modalities for recurrent basal cell carcinoma**	
	論文の日本語タイトル	再発性基底細胞癌に対する治療法の比較	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ、システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ III ）	
	Pubmed ID	424458	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plastic and Reconstructive Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	63	
	号	4	
	ページ	492-496	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0032-1052 eISSN: 1529-4242	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1979	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Sakura CY	Roswell Park Memorial Hospital
	その他著者 1	Calamel PM	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の8項目			
	目的	再発性基底細胞癌に対する複数の治療法の有効性を比較検討する	
	研究デザイン	非ランダム化比較試験	
	セッティング	米国の1総合病院	
	対象者	再発性基底細胞癌 97 例（多発例は除く）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	1）放射線療法 35 例（病変の境界より 1cm 以上含めて、45～55Gy） 2）Mohs 法 40 例（固定法） 3）外科的切除 20 例（切除マージンの記載なし、25%は術中迅速病理併用） 4）治療なし 2 例 に非ランダムに割り付け	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再々発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	5年以上の経過観察期間で、最終的な再々発率は放射線で 11%、Mohs法で 12%、外科的切除で 5%であり、症例全体では 9.7%であった。	
	結論	再発性基底細胞癌に対しては、放射線療法、Mohs 法、外科的切除のいずれの治療も有用であった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（III） 治療法を割り付けた基準が示されていないために、これら 3 通りの治療法による今回の再々発率を単純に比較することは出来ないが、フォロー期間も 5 年以上とされておりデータの信頼度は高い。本研究における Mohs 法は固定法であるが、現在欧米で普及している Mohs 法は凍結組織を用いるものが標準となっている。	

BCC CQ17 (4)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Basal cell carcinoma treated with Mohs surgery in Australia II. Outcome at 5-year follow-up**	
	論文の日本語タイトル	オーストラリアにおける基底細胞癌に対する Mohs surgery II.5 年後の治療成績	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ、システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ IV ）	
	Pubmed ID	16112352	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	3	
	ページ	452-457	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leibovitch I	Oculoplastic and Orbital Division, Department of Ophthalmology an Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide
	その他著者 1	Huilgol C	
	その他著者 2	Selva D	
	その他著者 3	Richards S	
	その他著者 4	Paver R	
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の8項目			
	目的	基底細胞癌に対する Mohs surgery の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	オーストラリアの大学病院	
	対象者	1993～2002 年の基底細胞癌患者 3370 例（初発 1886 例、再発 1484 例）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Mohs surgery（凍結組織法）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	5 年再発率は初回治療病巣で 1.4%、再発病巣で 4%であった。 再発予測因子として有意と考えられたのは、再発歴、Mohs surgery 前の期間、浸潤性の組織型、Mohs ステージ数であった。	
	結論	Mohs surgery による 5 年再発率は低く、有用な治療法である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 組織型については検定上の有意水準は満たしていないが、著者は有意と結論付けている。	

BCC CQ17 (5)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrent basal cell carcinoma treated with radiation therapy**	
	論文の日本語タイトル	再発性基底細胞癌に対する放射線療法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1952970	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	127	
	号	11	
	ページ	1668-1672	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0003-987X　eISSN: 1538-3652	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1991	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Wilder RB	University of Arizona College of Medicine
	その他著者 1	Shimm DS	
	その他著者 2	Kittelson JN	
	その他著者 3	Rogoff EE	
	その他著者 4	Cassady R	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	再発性基底細胞癌に対する放射線療法の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の1大学病院	
	対象者	再発性基底細胞癌 50 例 61 病巣	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	放射線療法 30～70.2Gy（臨床的あるいは組織学的な腫瘍境界から 5mm 以上広い範囲）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再々発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	観察期間の中央値は 57 ヵ月（1～144 ヵ月）で、61 病巣中 6 病巣（9.8%）が再々発（内、2 病巣は消退得られず）。腫瘍径、病期、部位、組織型、年齢、性、線量、照射回数、照射期間、線源を共変量とした Cox の比例ハザードモデルでは、腫瘍径と病期のみが再々発に有意に影響する因子であった。	
	結論	放射線療法は再発性基底細胞癌に対して有用な治療である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 再発性基底細胞癌の治療に関する他の報告に比較すると、観察期間が長い点はデータとしての価値が高い。再々発率は 9.8%とやや高めではあるが、39 例は 2 回以上再発している症例であり、morpheaform が 10 例を占めるなど、ハイリスク症例を多く対象としているためと考えられる。	

BCC CQ17 (6)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、有棘細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Radiotherapy of recurrent basal and squamous cell skin carcinomas: a study of 249 re-treated carcinomas in 229 patients.**	
	論文の日本語タイトル	再発性基底細胞癌、有棘細胞癌に対する放射線療法：229 例 249 病巣の検討	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	11174133	
	医中誌 ID		
	雑誌名	European Journal of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	11	
	号	1	
	ページ	25-28	
	ISSN ナンバー	pISSN: 1167-1122	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	2001	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Caccialanza M	Institute of Dermatological Science of the University
	その他著者 1	Piccinno R	
	その他著者 2	Grammatica A	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		

一次研究の8項目	目的	再発性の基底細胞癌、有棘細胞癌に対する放射線療法の有効性を検証する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	イタリアの1大学病院	
	対象者	再発性の基底細胞癌 226 病巣と有棘細胞癌 23 病巣（229 例）（放射線治療歴があるものは除外）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 14 ）	
	介入（要因曝露）	45～70Gy の放射線療法（境界不明瞭な病変には 1cm 広めに照射範囲を設定。境界明瞭、もしくは眼瞼等の特殊部位には 5mm。）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	再々発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	整容効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	主な結果	照射後 5 年の時点での局所制御率は 83.62%。平均観察期間 41.663 ヵ月（1～287 ヵ月）の中で再々発は 20 病巣（8.03%）にみられ、いずれも基底細胞癌であった。整容効果は“good”が 126 病巣（完全消退に至った病巣の内の 58.06%）であった。	
	結論	放射線療法は安全で、Mohs 法を行った後の再発例に最も有効。種々の理由で積極的な手術が受けられない患者には第一選択となるべき治療である。	
	備考	再発した基底細胞癌 20 病巣の部位は頭部・顔面が 19 を占めた。15 例が辺縁から、5 例は中央下床からの再々発。	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ⅠV） 基底細胞癌に限っていえば再々発率は 8.85%（20/226）となっているが、フォロー期間に幅が大きく、再々発までの期間も明記されていないためにアウトカムの詳細に関してややデータの精度を欠いている。 また、再発に至った前治療の内容は外科療法が 106 例と半数以下であり、凍結療法、電気外科療法、レーザー、5-FU 外用が多くを占める。本邦では基底細胞癌の初期治療として 100%近く外科療法が行われているため、本研究の内容を本邦に適用するにあたっては、それら背景因子の相違を考慮すべきであろう。	

BCC CQ17 (7)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrent basal cell carcinoma treated with cryosurgery**	
	論文の日本語タイトル	再発性基底細胞癌に対する凍結療法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	9216527	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号	1	
	ページ	82-84	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0190-9622 eISSN: 1097-6787	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1997	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kuflik EG	New Jersey Medical School
	その他著者 1	Gage AA	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の8項目	目的	再発性基底細胞癌に対する凍結療法の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	米国の1大学病院	
	対象者	再発性基底細胞癌 54 例 56 病巣	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	液体窒素スプレー法による凍結療法を1回（2回以上の freeze-thaw cycle）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	創傷治癒	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	再々発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	病巣は全例 1～2 週で痂皮を形成し、6～8 週で創傷治癒。治療後観察期間は 5～10 年が 14 例、4 年、3 年、2 年が 4 例ずつ、1 年超が 15 例、1 年未満 9 例、フォローなしが 4 例。そのうち 2 例（3.6%）に再々発がみられ、期間は各々3 年と 7 年であった。	
	結論	再発性基底細胞癌に対する凍結療法は、他の方法に匹敵するだけの治療成績が得られる。	
	備考	発生部位は 68%が頭頸部。再発前の治療は大半（43 例）が curettage & electrodessication。	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 再々発率が 3.6%ということであれば良好な成績といえるが、フォロー期間が全体に短い。加えて、対象症例の背景因子（部位、病型等）について詳述されていないためにそもそものリスク評価が出来ず、他の報告との比較がしにくい。	

BCC CQ17 (8)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Photodynamic therapy of residual or recurrent basal cell carcinoma after radiotherapy using topical 5-aminolevulinic acid or methylester animolivulinic acid**	
	論文の日本語タイトル	放射線療法後の残存・再発性基底細胞癌に対するアミノレブリン酸を用いた光線力学療法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	11093368	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Acta Oncologica	
	雑誌 ID		
	巻	39	
	号	5	
	ページ	605-609	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0284-186X eISSN: 1651-226X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Soler AN	The Norwegian Radium Hosptal
	その他著者 1	Warloe T	
	その他著者 2	Tausio J	
	その他著者 3	Giercksky KE	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	放射線療法後の残存・再発性基底細胞癌に対する光線力学療法の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	ノルウェーの1総合病院	
	対象者	放射線療法後に残存・再発した基底細胞癌 20 例 22 病巣（残存 6、再発 16）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	損破後のアミノレブリン酸光線力学療法 1～5 回	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	完全消退	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2	再々発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	3	整容効果	1.主要 2.副次 3.その他（ 2 ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	観察期間は最終治療後 6～40 ヵ月（平均 22 ヵ月）で、22 病巣中 18 病巣が完全消退（臨床的評価）。3 病巣が消退に至らず、1 病巣が 24 カ月後に再発。 整容効果は完全消退例の内 15 病巣が “excellent”、3 病巣が “good”。	
	結論	放射線療法後の残存・再発基底細胞癌に対して光線力学療法は有用であった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 残存・再発病変に対する初期目標としての完全消退は良好な結果が得られているが、“完全消退” が臨床的な評価であることには注意が必要。 症例数はやや少ないが、詳細に長期観察しており、後ろ向きコホート研究に準ずるレベルのものと評価した。	

BCC CQ17 (9)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌．全国アンケートの集計と説明	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ17-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	1995094368	
	雑誌名	Skin Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	9	
	号	1	
	ページ	80-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 1 ）	
	発行年月	1994	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	石原和之	国立がんセンター中央病院
	その他著者 1		
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の８項目	目的	基底細胞癌の疫学調査	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	全国の皮膚科施設	
	対象者	基底細胞癌（1987～1991 年）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 1 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）		
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	基底細胞癌の発生数および背景因子	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	基底細胞癌 2806 例が登録された。治療内容としては、初発 2576 例、再発 127 例に対して手術 2721 例（98%）、放射線 21 例、化学療法 29 例が施行された。転帰としての腫瘍死は 2 例のみであった。	
	結論		
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 経時的に多数例を観察しており、コホート研究と評価した。	

BCC CQ18 (1)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Predicting recurrence of basal-cell carcinomas treated by microscopically controlled excision. A recurrence index score**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における Mohs 法後の再発予測．再発指標スコア	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	7298981	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	7	
	号	10	
	ページ	807-810	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0148-0812	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1981	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rigel DS	New York University Medical Center
	その他著者 1	Robins P	
	その他著者 2	Friedman RJ	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の８項目	目的	基底細胞癌における Mohs 法後の再発危険因子を同定し、リスクグループを設定する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の 1 大学病院	
	対象者	基底細胞癌 2960 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	性別、年齢、腫瘍径、部位、Mohs 法のステージ数、前治療の 6 因子を説明変数、5 年再発の有無を目的変数として、単変量解析と多変量解析（重回帰分析）を施行。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	症例全体の 5 年再発率は 2.6%であった。単変量解析（カイ二乗検定）では 6 因子のいずれも再発との有意な関連を認めた。これら 6 因子を共変量として重回帰分析を施行し、得られた偏回帰係数を再発指標スコアとして算出。合計のスコアにより、'リスクなし' '低リスク' '標準リスク' '高リスク' までの 4 段階のリスクグループを設定し、それぞれの再発率は 0、0.7、2.6、10%（平均の 4 倍）であった。	
	結論	再発の高リスクグループの症例については、さらに広範囲の切除と十分なフォローアップが必要。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 症例数が多いために、6 因子の中でも腫瘍径、発生部位などもカテゴリーが細かく分けられている。しかし本邦では Mohs 法自体はほとんど行われていないので、この 6 因子によるリスクグループ分類をそのまま持ち込むことは困難かもしれない。	

BCC CQ18 (2)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Multivariate risk score for recurrence of cutaneous basal cell carcinomas**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における再発リスクの多変量解析	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	6847215	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	119	
	号	5	
	ページ	373-377	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0003-987X eISSN: 1538-3652	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1983	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dubin N	New York University School of Medecine
	その他著者 1	Kopf AW	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌の再発に関わる危険因子を同定する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の1大学病院	
	対象者	基底細胞癌 1417 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	治療法別に掻破＋電気乾固（C & E）、放射線（X 線）、外科的切除の 3 群に分け、それぞれ年齢、性別、前治療、腫瘍径、嚢腫状変化、部位を説明変数とし、再発を目的変数とした多重ロジスティックモデルを構築。	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	治療後 5 年時点での症例全体の再発率は 18.3%。外科的切除は 9.3%、放射線は 9.7%、C & E は 26.0%であった。多重ロジスティックモデルの結果で有意であった因子は、外科的切除では腫瘍径と部位（頭部、耳介、眼瞼、鼻、その他顔）、放射線では腫瘍径と部位（鼻）、性別（男）、C & E では腫瘍径、部位（前額、耳介、眼瞼、鼻、その他顔）、前治療、年齢であった。	
	結論	治療法に関わらず、腫瘍径と発生部位はいずれの治療群においても有意な再発危険因子であった。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） ニューヨーク大学における基底細胞癌の一連の報告の 1 つ。対象期間が 1955～1969 年と古いために C & E の症例が多くなっているが、外科的切除の再発データは現在でも十分適用可能である。	

BCC CQ18 (3)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 2: Curettage-electrodessication**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート 2：C & E	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1820764	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号		
	ページ	720-726	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	1991	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf A	
	その他著者 2	Grin C	
	その他著者 3	Bart R	
	その他著者 4	Levenstein M	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	C & E 治療後の基底細胞癌の再発に関与する因子を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	初回治療基底細胞癌 2314 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Curettage-electrodessication	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	比例ハザードモデルによる多変量解析では、腫瘍径、高危険部位（鼻、鼻周囲、鼻唇溝、耳介、下顎、口囲、眼囲）、中危険部位（頭部、前額、耳前、耳後、頬）、治療時期（1955-1963）が独立した有意な再発予測因子であった。 頭部、体幹、四肢の低危険部位では腫瘍径に関わらず C & E は有効で、5 年再発率は 3.3%であった。中危険部位で 10mm 未満の場合の 5 年再発率は 5.3%、高危険部位で 6mm 未満の場合は 4.5%であった。	
	結論	6mm 未満の基底細胞癌に対しては、高危険部位であっても C & E は有用である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） ニューヨーク大学による一連の報告の 1 つである。本邦では C & E は普及していないが、症例の選択によっては有用性が示唆されている。症例数が多くフォロー期間も長いため、再発危険因子のデータとしても信頼度は非常に高い。	

BCC CQ18 (4)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 4: X-ray therapy**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート4：放射線療法	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1624628	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	7	
	ページ	549-554	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf A	
	その他著者 2	Gladstein A	
	その他著者 3	Bart R	
	その他著者 4	Grin C	
	その他著者 5	Levenstein M	
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	放射線治療後の基底細胞癌の再発に関与する因子を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	「標準的方法」で初回放射線治療を実施した基底細胞癌 862 例（１９５５－８２）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	放射線療法（X 線照射）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	症例全体の 5 年再発率は 7.4%。再発症例 211 例に対して行った場合の 5 年再々発率は 9.5%であり、有意差はみられなかった。比例ハザードモデルによる多変量解析では、腫瘍径のみが独立した有意な再発予測因子であった。頭部で腫瘍径 10mm 未満の場合の 5 年再発率は 4.4%、10mm 以上の場合は 9.5%であった。治療者側による整容効果の評価として、good もしくは excellent 判定は 63%で、C & E の 91%、外科的切除の 84%よりも劣っていた。	
	結論	放射線療法は頭頸部の症例であっても 10mm 未満であれば有効性は高い。手術困難な高齢者などには適用しやすい。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） ニューヨーク大学による一連の報告の 1 つである。症例数が多くフォロー期間も長いため、再発危険因子のデータとしても信頼度は非常に高い。	

BCC CQ18 (5)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 3: Surgical excision**	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート3：外科的切除	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し　（ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ．システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ．1つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ．非ランダム化比較試験 Ⅳ．分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ．記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ．患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	1592998	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	6	
	ページ	471-476	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他　（ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他　（ 2 ）	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf A	
	その他著者 2	Bart R	
	その他著者 3	Grin C	
	その他著者 4	Levenstein M	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の8項目	目的	外科的切除後の基底細胞癌の再発に関与する因子を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	初回治療基底細胞癌 588 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず　（ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず　（ 22 ）	
	介入（要因曝露）	外科的切除（切除マージンの記載なし）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶｳﾝﾄ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（　）
	主な結果	症例全体の 5 年再発率は 4.8%。比例ハザードモデルによる多変量解析では、部位（頭部）、性別（男）が独立した有意な再発予測因子であった。 5 年再発率は、頭部、体幹、四肢は 0.7%、頭部で腫瘍径 6mm 未満は 3.2%、頭部で 6－9mm は 8%、頭部で 10mm 以上は 9%であった。整容効果としては、非再発症例のうちの 85%で good から excellent の評価であった。	
	結論	外科的切除は頭部以外においては極めて有効な治療法である。再発危険部位である頭部においても、5mm 以下の病変であれば高い治癒率が期待できる。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） ニューヨーク大学による一連の報告の 1 つである。症例数が多くフォロー期間も長いため、再発危険因子のデータとしても信頼度は非常に高い。	

BCC CQ18 (6)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Basal cell carcinoma treated with Mohs surgery in Australia II. Outcome at 5-year follow-up**	
	論文の日本語タイトル	オーストラリアにおける基底細胞癌に対する Mohs surgery II.5 年後の治療成績	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	16112352	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of the American Academy of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	3	
	ページ	452-457	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2005	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leibovitch I	Oculoplastic and Orbital Division, Department of Ophthalmology an Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide
	その他著者 1	Huilgol C	
	その他著者 2	Selva D	
	その他著者 3	Richards S	
	その他著者 4	Paver R	
	その他著者 5		
	その他著者 6		

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対する Mohs surgery の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	オーストラリアの大学病院（多施設）	
	対象者	1993～2002 年の基底細胞癌患者 3370 例（初発 1886 例、再発 1484 例）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 22 ）	
	介入（要因曝露）	Mohs surgery（凍結組織法）	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	3370 例のうち 98.4%が頭頸部で、組織型は nodulocystic が 29.3%、infiltrating が 28.3%と多かった。5 年再発率は初回治療病巣で 1.4%、再発病巣で 4%であった。 再発予測因子として有意と考えられたのは、再発歴（p<0.001）、Mohs surgery 前の期間（p=0.015）、浸潤性の組織型（p=0.13）、Mohs ステージ数（p<0.001）であった。	
	結論	Mohs surgery による 5 年再発率は低く、有用な治療法である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ Ⅳ ） 組織型については検定上の有意水準は満たしていないが、著者は有意と結論付けている。	

BCC CQ18 (7)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	**Basal cell carcinoma of the head and neck: Identification of predictors of recurrence**	
	論文の日本語タイトル	頭頸部基底細胞癌における再発危険因子の同定	
診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ情報	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝでの引用有無	1.有り 2.無し （ 1 ）	
	ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ上での目次名称	BCCCQ18-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	Ⅰ. システマティック・レビュー／メタアナリシス Ⅱ. 1 つ以上のランダム化比較試験 Ⅲ. 非ランダム化比較試験 Ⅳ. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） Ⅴ. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） Ⅵ. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 （ Ⅳ ）	
	Pubmed ID	10743767	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ear, Nose & Throat Journal	
	雑誌 ID		
	巻	79	
	号	3	
	ページ	200-202	
	ISSN ナンバー	pISSN: 0145-5613	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 （ 1 ）	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 （ 2 ）	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bumpous JM	University of Louisville School of Medicine
	その他著者 1	Padhya TA	
	その他著者 2	Barnett SN	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		

一次研究の 8 項目	目的	頭頸部基底細胞癌における再発危険因子を同定する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	米国の 2 総合病院（大学の関連病院）	
	対象者	初回治療の頭頸部基底細胞癌 165 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （ 3 ）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （ 14 ）	
	介入（要因曝露）	年齢、性別、治療前危険因子、病変数、部位、組織型、切除法、再建法の各因子と再発率との関連を統計学的に検討	
	ｴﾝﾄﾞﾎﾟｲﾝﾄ（ｱｳﾄｶﾑ）	エンドポイント	区分
	1	再発（フォロー期間 18 ヵ月）	1.主要 2.副次 3.その他（ 1 ）
	2		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	3		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	18 ヵ月のフォロー期間において、165 例中 23 例（14%）が再発。単変量解析では男性（p<0.01）、術前危険因子（悪性腫瘍歴、放射線治療歴、瘢痕、色素性乾皮症、基底細胞母斑症候群）の保有（p<0.05）、多発病変（p<0.01）、組織型（硬化型、basosquamous、p<0.05）の 4 因子が有意に再発率が高かった。これらを含めた多変量解析では術前危険因子と多発病変が最も有意な危険因子であった。組織型では有意差がでなかった（p＝0.06）	
	結論	再発危険因子の同定についての今回の結果は、術前におけるリスク評価に重要である。	
	備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 単変量のみでなく多変量解析を行ってはいるが、統計手法についての記載が乏しいために、客観的な評価がしづらい。	